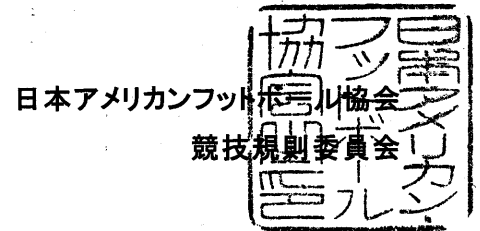


2008年度・公式規則変更予定報



日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在、2008年秋季公式戦から適用される公式規則の変更を作業中です。

この2008年度・公式規則変更予定報は、本年度の公式規則変更を予定している主要項目、および現段階で予定している2009年秋季公式戦より適用する変更項目に関し説明をしたもので、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。ここに記載している内容は、今後の作業で変更の可能性があります。正式には、本年7月上旬頃に発表予定の2008年度・公式規則変更決定報で公示します。

2008年度、および2009年度で予定している変更の主要項目は、以下のとおりです。

[1] 2008年度・公式規則変更予定主要項目

2008年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) サインの撮影禁止

☆従来、相手チームのサインを撮影することは、特に禁止されていなかった。

★本年より、相手のプレーヤー、コーチ、またはチーム関係者が出すサインをAV機器により記録する行為は禁止される。(1-4-9-g)

(2) チョップ・ブロックの定義の変更

☆従来、チョップ・ブロックとは、以下に規定されるブロックであった。

- a. ブロッカーと同一チームのプレーヤーによって既に接触されているか、または最初のブロッカーから離れつつあるか、あるいは離れた直後でまだ最初のブロッカーと対峙している相手プレーヤー(例外:ランナー)に対し、股またはその下に対して行う明らかに遅れたブロック。
- b. 2人のブロックの間の時間的な差の有無にかかわらず、互いに隣接していない2人のラインマンによってニュートラル・ゾーンで行われるハイ/ロー、ロー/ハイ、ロー/ローのコンビネーションのブロック。
- c. 2人のブロックの間の時間的な差の有無にかかわらず、最初の接触が明らかにニュートラル・ゾーンを越えた位置で、2人の攻撃側のプレーヤーによって行われる(ブロックに関係する全員

がニュートラル・ゾーンを越えている)ハイ/ロー、ロー/ハイ、ロー/ローのコンビネーションのブロック。

- ★本年より、チョップ・ブロックとは、フィールド上のどこであれ、(ランナーを除く)相手に対して2人のプレーヤーによる「ハイ/ロー」または「ロー/ハイ」の組み合わせによるブロックになった。「ロー」ブロックとは相手の股またはその下に対するものをいう。ブロックの場所、時間等による規定はなくなった。(2-3-3)

(3) フィールドゴール時のキッキング・ティーの使用禁止

- ★従来、フィールドゴールにおいてキッキング・ティーを使用することができた。
- ★本年より、フィールドゴールにおいてキッキング・ティーを使用することはできなくなった。なお、本項目は、2006年度および2007年度公式規則変更決定報で予告した項目である。(2-15-4-a)

(4) キッキング・ティーの規格の変更

- ★従来、キッキング・ティーの高さは、ボールの最下端がグラウンドから2インチ(約50mm)までであった。
- ★本年より、キッキング・ティーの高さは、ボールの最下端がグラウンドから1インチ(約25mm)までになった。なお、本項目は、2006年度および2007年度公式規則変更決定報で予告した項目である。(2-15-4-c)

(5) 不用意なホイッスル時の計時調整の廃止

- ★昨年の変更で、プレー中に不用意なホイッスルが吹かれ、ダウンが繰り返される場合、ゲーム・クロックは不用意なホイッスルが吹かれたプレーの前の状態に戻された。
- ★本年より、この規定が削除され、ゲーム・クロックの時間は不用意なホイッスルが吹かれたプレーの前の状態に戻さないことになった。2006年までの公式規則に戻る。(3-2-2-i)

(6) キックオフ時の25秒計の計時開始

- ★従来、キックオフ時の25秒計の計時開始に関する規定は、特になかった。
- ★本年より、アンパイヤがキッカーにボールを手渡した時にレフリーはレディ・フォー・プレーを宣告することになった。(6-1-2)

(7) ショルダー、襟首をつかむタックルの禁止

- ★従来、ランナーのショルダーパッドまたはジャージーの襟首をつかんで引き倒すことは反則ではなかった。
- ★本年より、ショルダーパッド、またはジャージーの首の後部分または側面部をつかんで直ちにランナーを引き倒すことは禁止になった。ただし、両タックルの内側にいるランナーやポケットの中にいるクォーターバックには、この禁止事項は適用されない。(9-1-2)

(8) フェイスマスクの罰則変更

- ★従来、守備側のフェイスマスクの反則は、偶然につかんだだけの場合は5ヤードの罰則、ひねったり、まわしたり、引いたりした場合は15ヤードの罰則であった。

★本年より、フェイスマスクの反則は、フェイスマスクまたはヘルメットの開口部をつかんでひねる、回す、あるいは引いた場合のみが反則となり、15ヤードの罰則となる。偶然につかんだだけの場合は、反則ではなくなった。ただし、攻撃側も守備側も偶然につかんだだけの場合は、不正な手の使用など他の反則が適用される場合もある。 (9-1-2-q)

(9) 危険なタックルの禁止

★従来、ヘルメットを使用した相手への突き当たり、スピアリング、ヘルメットの上部での突き当たりが禁止されていた。

★本年より、これらの項目を整理し、ヘルメットの頂点から相手に当たっていくこと、かつヘルメットの頂点で相手を狙い撃ちすることが禁止になった。また無防備な相手の首またはその上に対して、接触が始まり、かつ相手を狙い撃ちすることは反則となった。 (9-1-3)

(10) サイドライン妨害への警告の廃止 (罰則の変更)

★従来、サイドライン妨害に対する罰則は、1回目と2回目の違反が警告、3回目の違反が5ヤード、以降は15ヤードであった。

★本年より、サイドライン妨害に対する罰則は、1回目と2回目の違反がディレー・オブ・ゲームとして5ヤード、3回目以降の違反がスポーツマンらしからぬ行為として15ヤードとなった。 (9-1-5)

[2] 2009年度・公式規則変更予定主要項目(予告)

2009年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。

(1) 40秒計時の導入

プレークロック(現在の25秒計)は、試合の進行の状況に応じて、計時時間が、40秒または25秒の2種類となる。40秒、25秒の計時は、それぞれ次の場合とする。

- ・40秒計時: インバウンズおよびアウト・オブ・バウンズでのボールデッド、パス不成功
- ・25秒計時: 罰則施行、チーム・タイムアウト、各節の開始、メディアタイムアウト、超過節でのシリーズの開始、メジャー、攻守交代、他の運営上の停止、トライ・フォー・ポイント

40秒計時は、ボールデッドの時点で計時開始とする。25秒計時は、レディ・フォー・プレーで計時開始とする。

以上